



シリーズ  
タンチョウ  
Vol. 330

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

櫻井真弓

〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ

検索



## 「日本野鳥の会の野鳥保護区の話」

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリは日本野鳥の会という公益財団法人直営の施設です。日本野鳥の会と言えば、「紅白でカチカチ」のイメージが強いのですが、紅白でカチカチしていたのは、ずいぶんと昔の話。日本野鳥の会は、「野鳥も人も地球の仲間」を合言葉に活動をしている自然保護団体で、鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリは、1987年に開設された日本野鳥の会のタンチョウ保護活動の拠点です。

日本野鳥の会では、タンチョウの営巣地と子育てをするための自然環境を開発から守るため、釧路根室地方に23か所の野鳥保護区を設置しています。そのうちの3か所が鶴居村の温根内地区にあります。温根内地区の道道53号線沿いで、日本野鳥の会のBマークを掲げた「渡邊野鳥保護区温根内」の看板を見たことがある方も多いかと思います。温根内地区の道道53号線西側の温根内川沿いの湿原には、上流に向かって「渡邊野鳥保護区温根内」「野鳥保護区古山温根内」「早瀬野鳥保護区温根内」と3つの野鳥保護区が設置されています。

この3つの保護区のある場所は、釧路湿原国立公園の湿原部と道道53号を隔てた場所ということもあり、釧路湿原が国立公園に指定された1987年当時は、タンチョウの営巣が確認できていたにも関わらず指定範囲から外れた地区でした。そのため、1990年に早瀬様のご寄付でタンチョウの営巣地を含む土地を購入し「早瀬野鳥保護区」を設置しました。その後、1993年は地権者の古山様と協定を結び「古山野鳥保護区」を、2006年には渡邊様のご寄付で土地を購入し「渡邊野鳥保護区」を設置しました。

「早瀬野鳥保護区」では、1990年の設置当初はタンチョウの営巣が確認されていましたが、1995年から繁殖が確認されなくなりました。土砂の流入によりハンノキが増えて繁殖に適さない環境に変わったことが要因ではないかと考え、ヨシ原の復元に取り組み、2002年には隣接地で再営巣を確認しました。その後は毎年タンチョウが繁殖に利用しているようです。そのような取り組みが評価されたこともあり、2011年には、国立公園の区域拡大に伴い、当会の3か所の野鳥保護区と、野鳥保護区に隣接する民有地の湿原が、国立公園に登録されました。

1993年に地権者の古山様と協定を結んで設置した「古山野鳥保護区温根内」ですが、この4月、古山様からのお申し出で当会が土地を購入し、名称も「野鳥保護区古山温根内」と改めました。近接の早瀬野鳥保護区をつがいのタンチョウが採餌場として利用しているその場所が、当会が土地を所有する野鳥保護区となったことで、永続的な保全が可能になりました。



古山保護区内で採餌するつがいのタンチョウ(2021年5月)